



2015年3月期 第2四半期 決算説明会

パイオニア株式会社
代表取締役 兼 社長執行役員
小谷 進

2014年11月7日

本日発表のポイント

1. 2015年3月期 第2四半期 連結決算:

- 第2四半期は、売上、営業利益ともに前年同期比では減少したが、営業利益は計画を上回った
- 上期は、売上は前年同期並み、営業利益は前年同期、計画とも上回った

2. 2015年3月期 連結業績予想:

- DJ機器事業の譲渡やグループ全体のスリム化等を反映し、当期純利益の予想を上方修正(売上5,150億円、営業利益125億円、純利益200億円)

3. トピックス

- カーエレクトロニクスの成長戦略について
- 全社中期数値計画について

本日の説明

1. 2015年3月期 第2四半期連結決算
2. 2015年3月期 連結業績予想
3. トピックス

当プレゼンテーション中、当社の現在の計画、概算、戦略、判断などの記述、また、その他すでに確定した事実以外の記述は、当社の将来の業績の見通しに関するものです。これらの記述は、現在入手可能な情報による当社経営陣の仮定および判断に基づいています。実際の業績は、様々な重要なリスク要因や不確定要素によって、見通しの中で説明されている業績から大きく異なる可能性もありますので、これらの記述に過度に依存されないようお願いします。また、当社は新たな情報、将来の事象、その他の結果によってこれらの記述を常に見直すとは限らず、当社はこのような義務を負うものではありません。当社に影響を与え得るリスクや不確定要素には、(1)当社が関わる市場の一般的な経済情勢、特に消費動向や当社が製品等を供給する業界の動向、(2)為替レート、特に当社が大きな売上や資産、負債を計上するユーロ、米ドル、その他の通貨と円との為替レート、(3)競争の激しい市場において、顧客から受け入れられる製品を継続して設計、開発する能力、(4)事業戦略を成功させる能力、(5)他社との合併、提携またはその他事業関係の成功、(6)資金調達能力、(7)研究開発や設備投資に十分な経営資源を継続して投下する能力、(8)製品に関する品質管理能力、(9)生産に必要な重要部品を継続して調達し得る状況、(10)偶発事象の結果などが含まれますが、これらに限られるものではありません。

1. 2015年3月期 第2四半期連結決算

2015年3月期 第2四半期・上期 連結業績概要

(単位:億円)

	第2四半期			上期		
	当四半期	前年同期	前年同期比	当期	前年同期	前年同期比
売上高	1,226	1,271	96.5%	2,359	2,363	99.8%
営業利益	31	81	38.1%	34	6	591.9%
経常損益	-11	72	-	-14	-20	-
当期純損益	-3	51	-	-24	-50	-

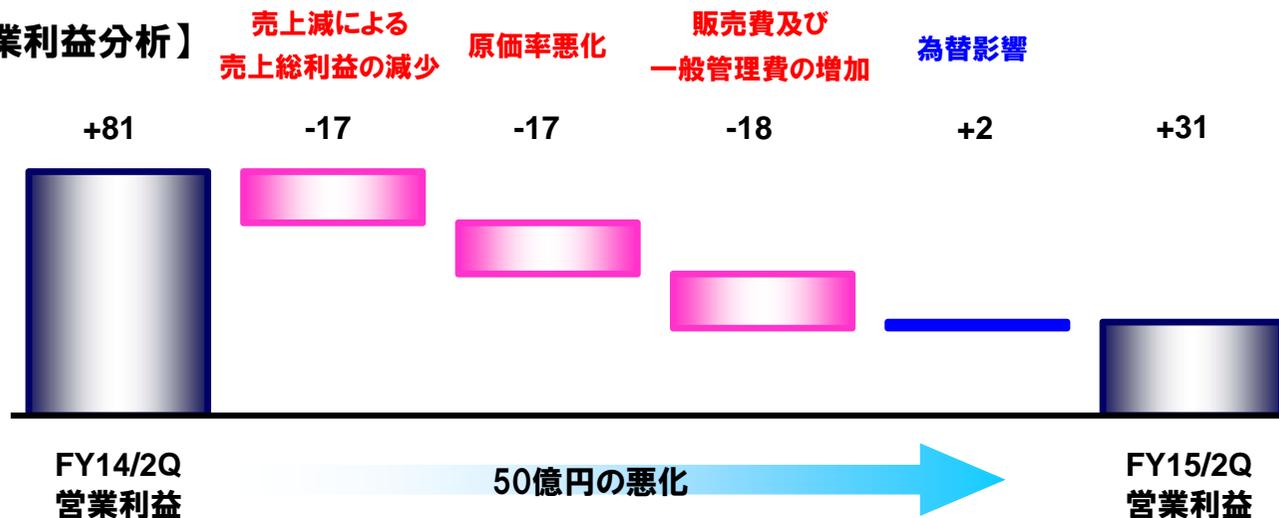
為替 平均レート	1USドル	103.92円	98.95円	+4.8%	103.04円	98.85円	+4.1%
	1ユーロ	137.76円	131.05円	+4.9%	138.92円	130.00円	+6.4%

1株当たり純損益	-0.94円	13.96円	-14.90円	-6.63円	-14.35円	+7.72円
ROE	-1.9%	25.1%	-27.0%	-6.5%	-12.4%	+5.9%
1株当たり純資産	208.76円	228.02円	-19.26円			
ROA	-0.4%	6.3%	-6.7%	-1.5%	-3.1%	+1.6%

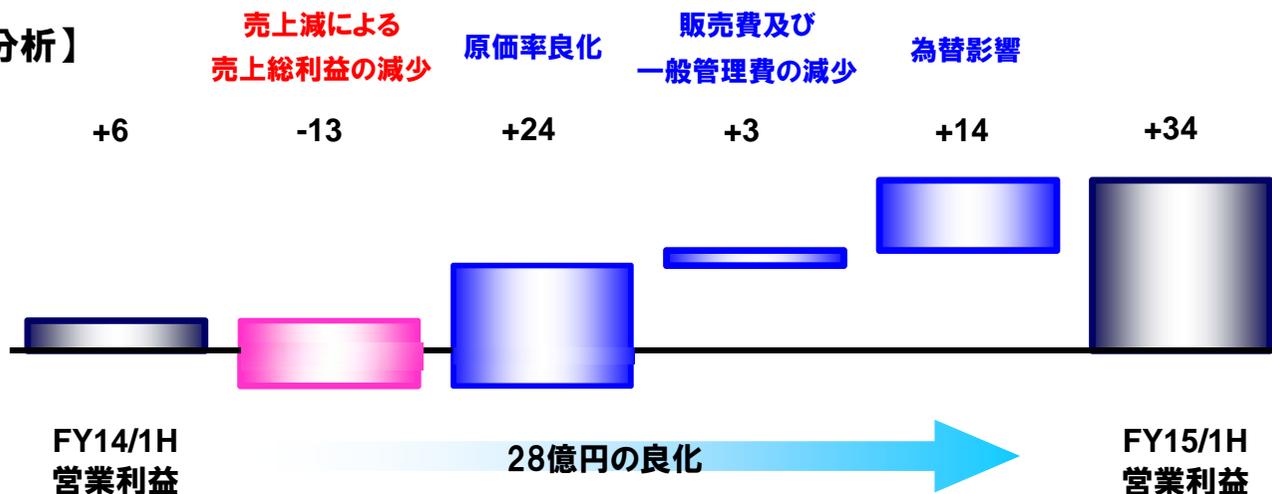
2015年3月期 第2四半期・上期 営業利益増減要因（前年同期比較）

（単位：億円）

【第2四半期 営業利益分析】

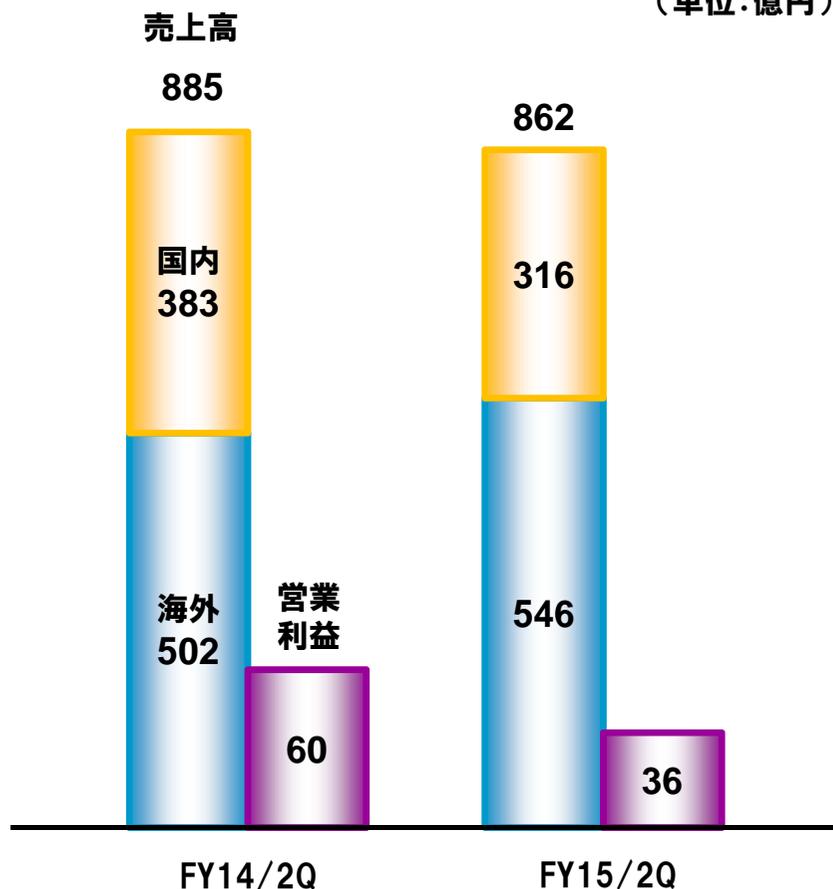


【上期 営業利益分析】



セグメント別売上高・営業利益(第2四半期): カーエレクトロニクス

(単位:億円)



< 売上高 > OEM比率 56% (前年同期 53%)

前年同期比	97% (国内 82%、海外 109%)
増収要因	OEMカーオーディオ OEMカーナビゲーションシステム
減収要因	市販カーナビゲーションシステム

< 営業利益 >

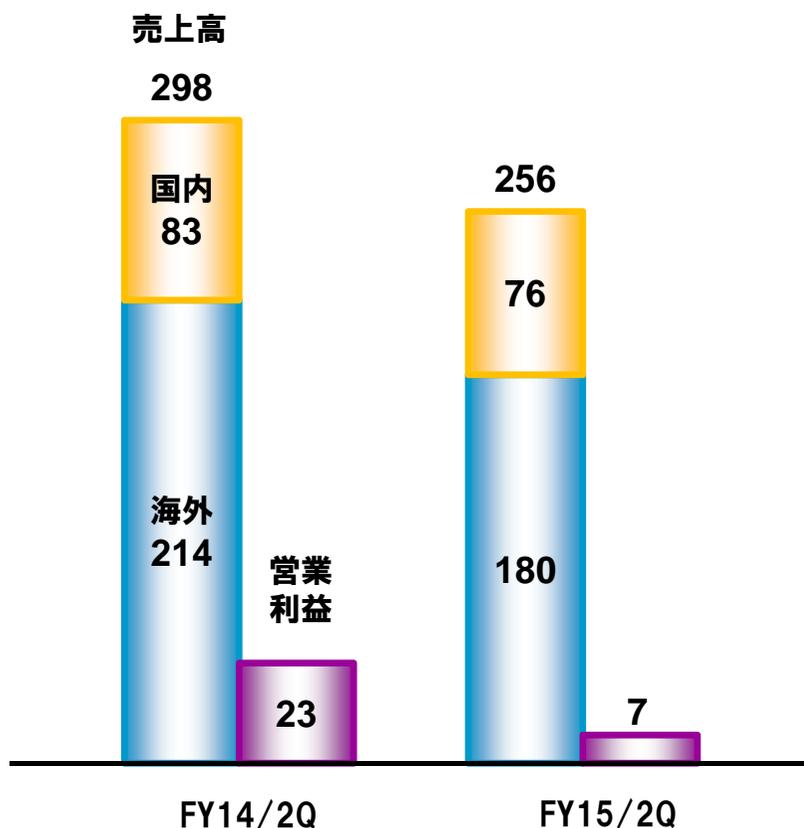
前年同期比	24億円の悪化
良化要因	為替影響(+2億円)
悪化要因	原価率悪化(-14億円) 売上減による売上総利益減少(-11億円) 販売費及び一般管理費の増加(-1億円)

※ 当セグメントに含まれる主要製品:
カーナビゲーションシステム、カーステレオ、カーAVシステム、カー
スピーカー

注)セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

セグメント別売上高・営業利益(第2四半期): ホームエレクトロニクス

(単位:億円)



< 売上高 >

前年同期比	86% (国内 91%、海外 84%)
増収要因	AVアクセサリー
減収要因	ホームAV製品、光ディスクドライブ関連製品

< 営業利益 >

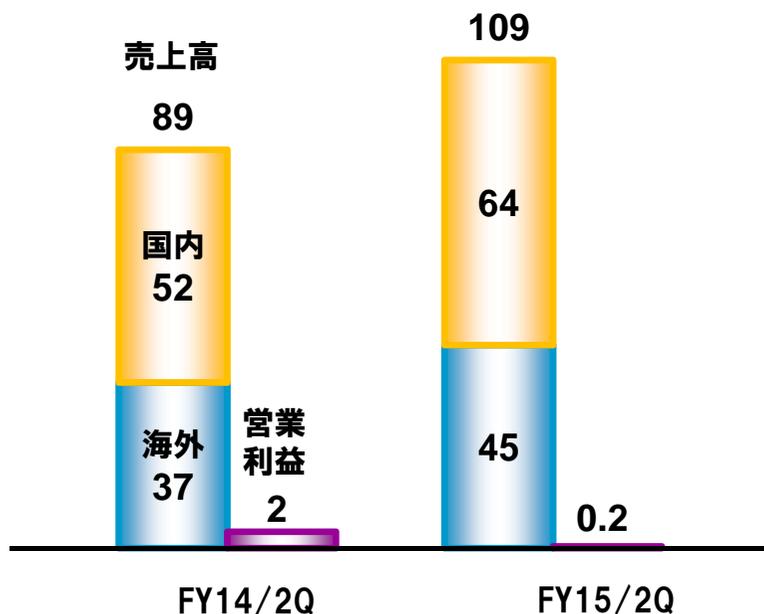
前年同期比	17億円の悪化
良化要因	販売費及び一般管理費の減少 (+4億円) 為替影響 (+1億円)
悪化要因	売上減による売上総利益減少 (-12億円) 原価率悪化 (-9億円)

※ 当セグメントに含まれる主要製品:
AVシステム、オーディオコンポーネント、DJ機器、CATV関連機器、ブルーレイディスクプレーヤー、ブルーレイディスクドライブ、DVDプレーヤー、DVDドライブ、AVアクセサリー、電話機

注) 1. セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。
2. 従来「その他」に含まれていた電話機を「ホームエレクトロニクス」に含めています。これに伴い、前年同期の金額についても、当四半期の表示に合わせて組替表示しています。

セグメント別売上高・営業利益(第2四半期): その他

(単位:億円)



< 売上高 >

前年同期比	123% (国内 122%、海外 123%)
増収要因	FA機器、地図ソフト
減収要因	電子部品

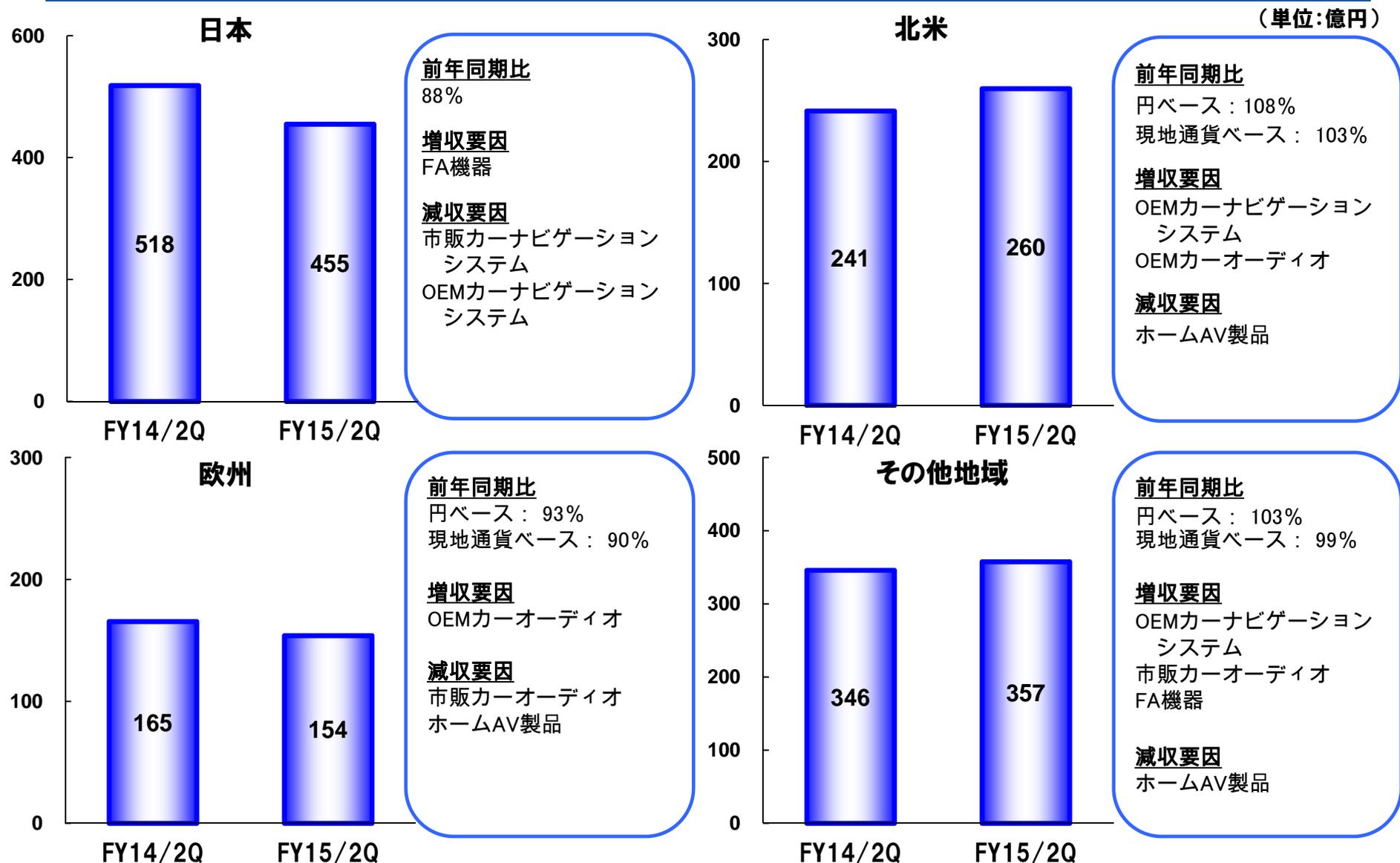
< 営業利益 >

前年同期比	2億円の悪化
良化要因	原価率良化 (+5億円) 売上増による売上総利益増加 (+3億円)
悪化要因	販売費及び一般管理費の増加 (-11億円)

※ 当セグメントに含まれる主要製品:
FA機器、スピーカユニット、電子部品、有機ELディスプレイ、
EMS(電子機器受託製造サービス)、地図ソフト

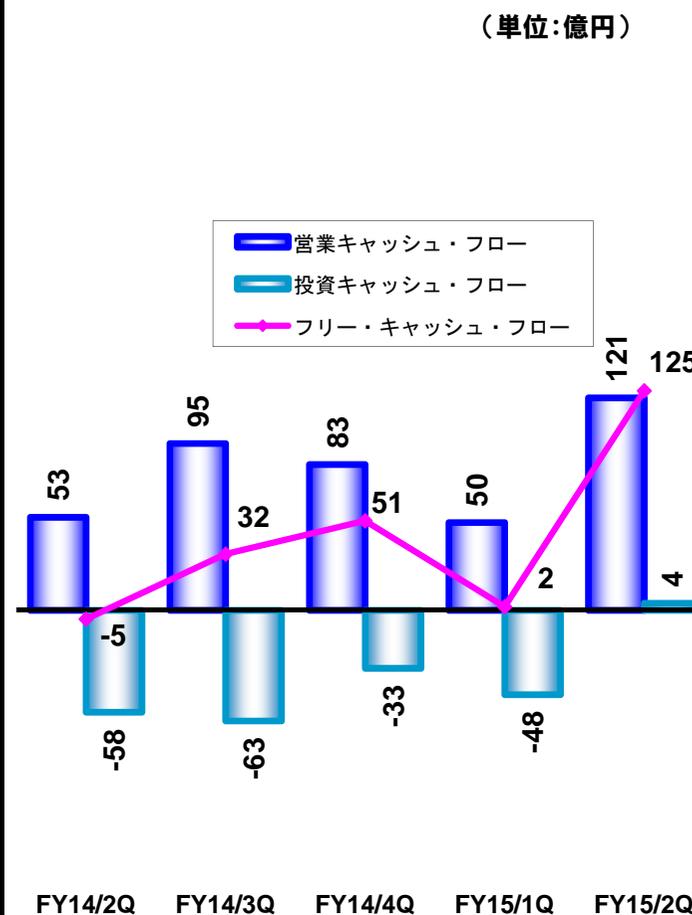
注) 1. セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。
2. 従来「その他」に含まれていた電話機を「ホームエレクトロニクス」に含めています。これに伴い、前年同期の金額についても、当四半期の表示に合わせて組替表示しています。

2015年3月期 第2四半期 地域別売上高



2015年3月期 第2四半期・上期 連結キャッシュ・フロー計算書

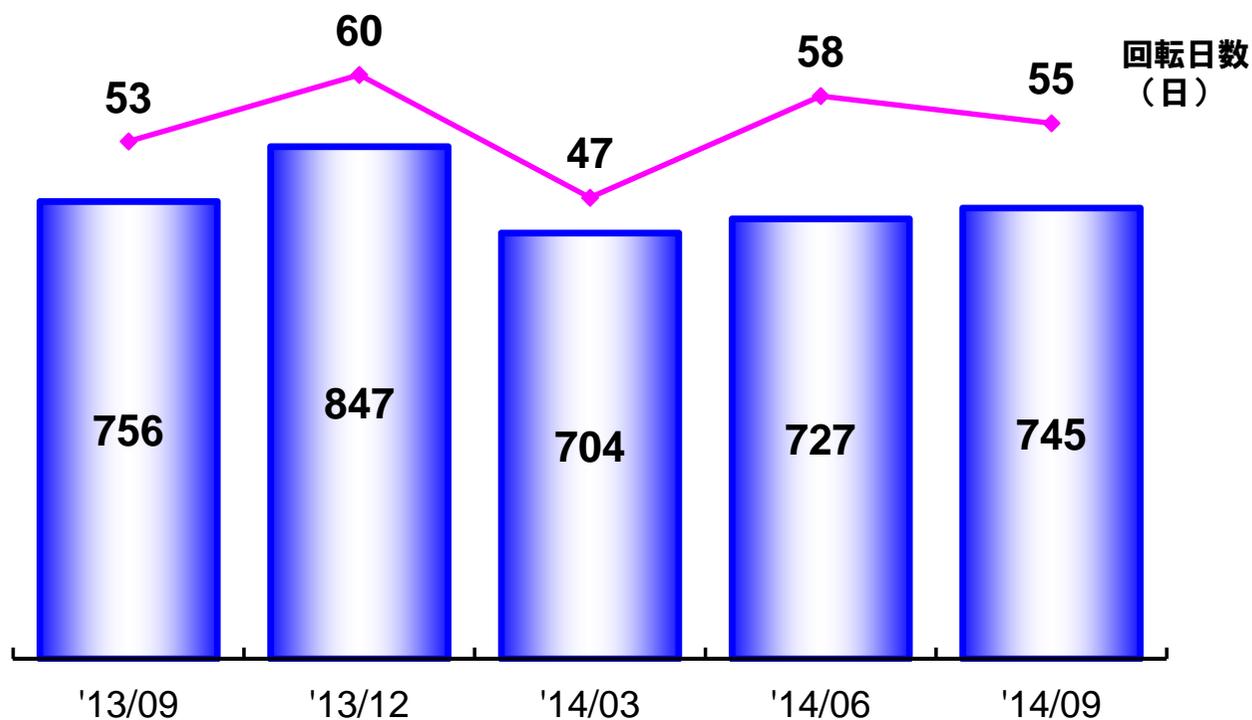
	第2四半期		上期	
	当四半期	前年同期	当期	前年同期
税金等調整前当期純損益	2	65	2	-29
減価償却費	58	60	112	125
退職給付に係る負債の増減(*)	-5	2	-8	4
事業構造改善費用引当金の増減	-	-	-	-62
固定資産除売却損益	-13	1	-13	1
投資有価証券売却損益	-5	-	-5	-
売上債権の増減	-24	-104	61	-35
棚卸資産の増減	7	22	-23	21
仕入債務の増減	4	119	6	210
未払費用の増減	59	-86	50	-14
その他	38	-27	-12	-58
営業キャッシュ・フロー	121	53	171	165
投資キャッシュ・フロー	4	-58	-44	-123
財務キャッシュ・フロー	-93	-12	-103	70
現金・現金同等物の換算差額	11	-1	9	5
フリー・キャッシュ・フロー	125	-5	127	41
現金・現金同等物の増減	43	-18	33	117
現金・現金同等物の残高	372	327		
NETキャッシュ残高	-404	-612		



注)(*)「退職給付引当金の増減額」を含んでいます。

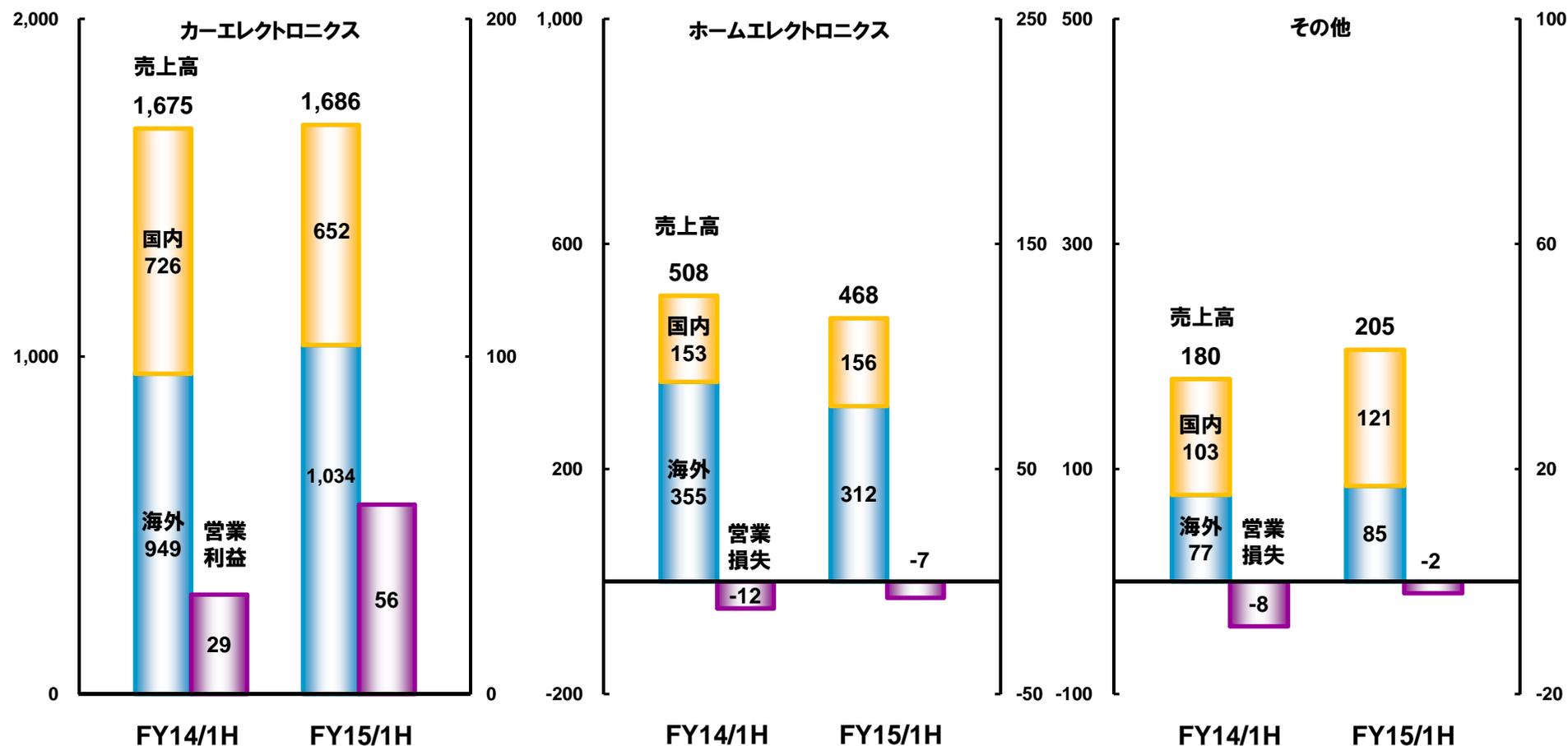
2015年3月期 第2四半期 棚卸資産

(単位:億円)



2015年3月期 セグメント別売上高・営業損益(上期)

(単位:億円)



注) 1. セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。
 2. 従来「その他」に含まれていた電話機を「ホームエレクトロニクス」に含めています。これに伴い、前年同期の金額についても、当半期の表示に合わせて組替表示しています。

2. 2015年3月期 連結業績予想

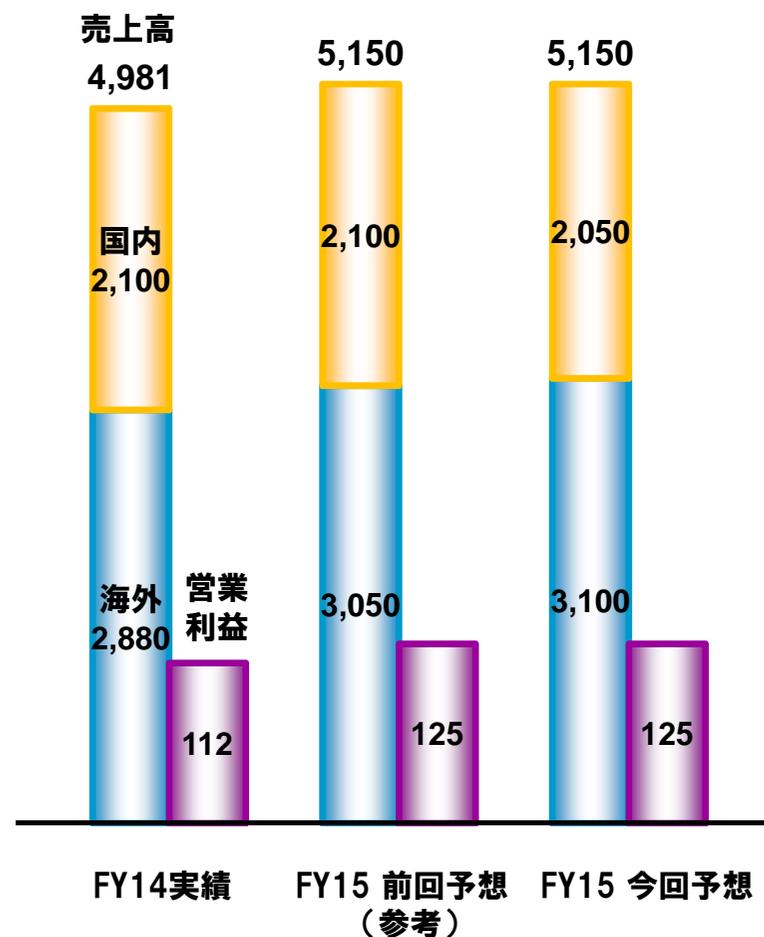
2015年3月期 通期連結業績予想

(単位:億円)

	今回予想	前回予想	前期実績	前期比
売上高	5,150	5,150	4,981	103.4%
営業利益	125	125	112	111.9%
経常利益	55	75	51	107.6%
特別損益	250	-5	6	45倍
当期純利益	200	20	5	38倍

		今回予想	前回予想	前期実績
為替前提 レート	1USドル	104.02円	100.54円	100.24円
	1ユーロ	136.96円	136.27円	134.37円

	今回予想	前回予想	前期実績	前期比
1株当たり純利益	54.47円	5.45円	1.49円	+52.98円
ROE	23.5%	2.7%	0.7%	+22.8%
1株当たり純資産	266.22円	202.78円	197.33円	+68.89円
ROA	6.1%	0.6%	0.2%	+5.9%



注) 1. 残り6か月間の予想レートは、1USドルは105円、1ユーロは135円を前提にしています。

2. 1円の円安インパクト(残り6か月)は、売上高では、USドルは約13.2億円、ユーロは約2.5億円、営業利益では、USドルは約▲1.8億円、ユーロは約1.5億円。

2015年3月期 通期連結業績予想の変化点

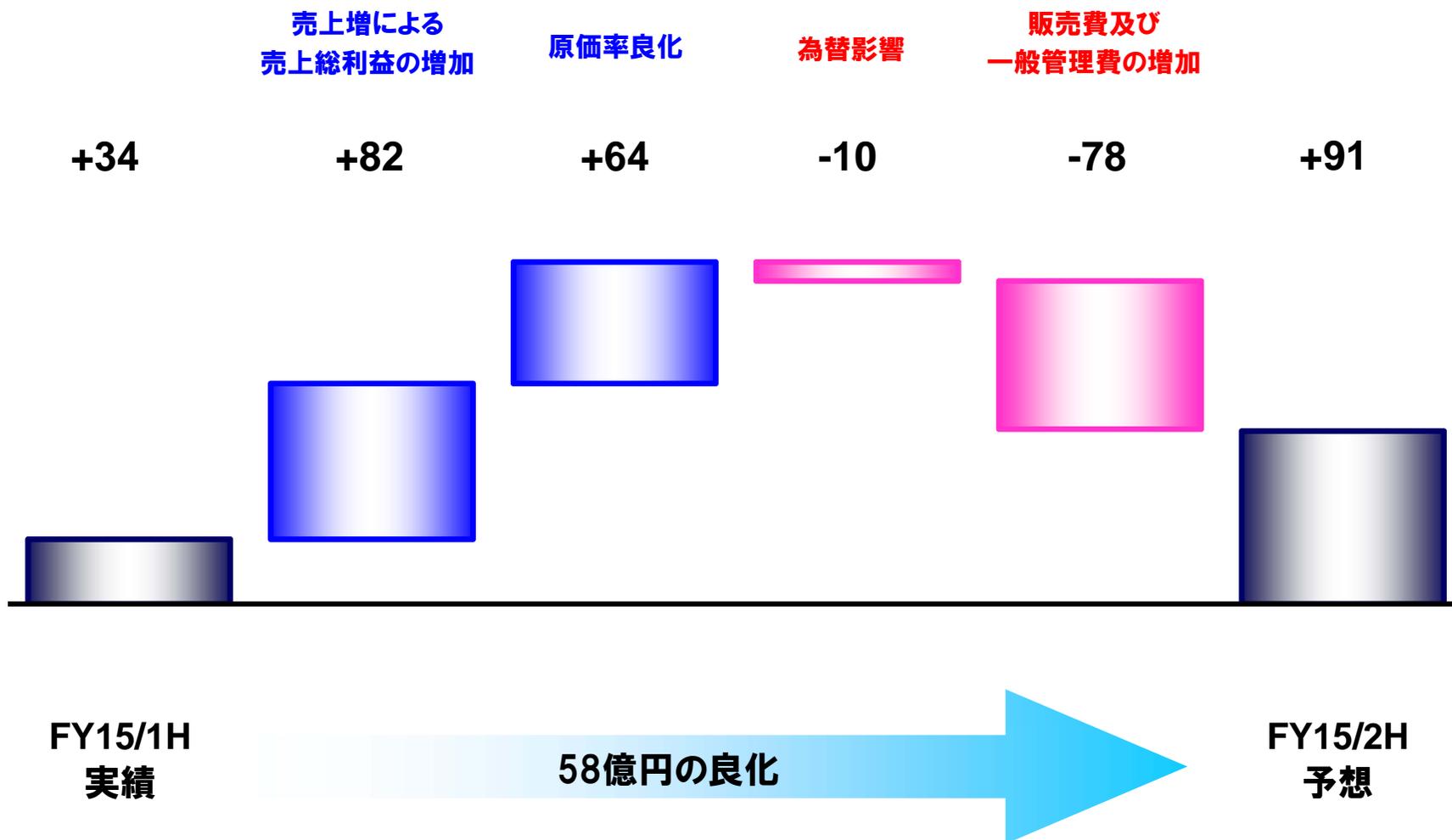
- **売上 5,150億円:前回予想から変更なし**
 - カーエレクトロニクスは、前回予想3,600億円から3,645億円に変更
 - ホームエレクトロニクスは、前回予想1,150億円から1,105億円に変更
 - その他事業は、変更なし

- **営業利益 125億円:前回予想から変更なし**
 - 為替の影響を減価償却費の減少や経費削減等でカバー

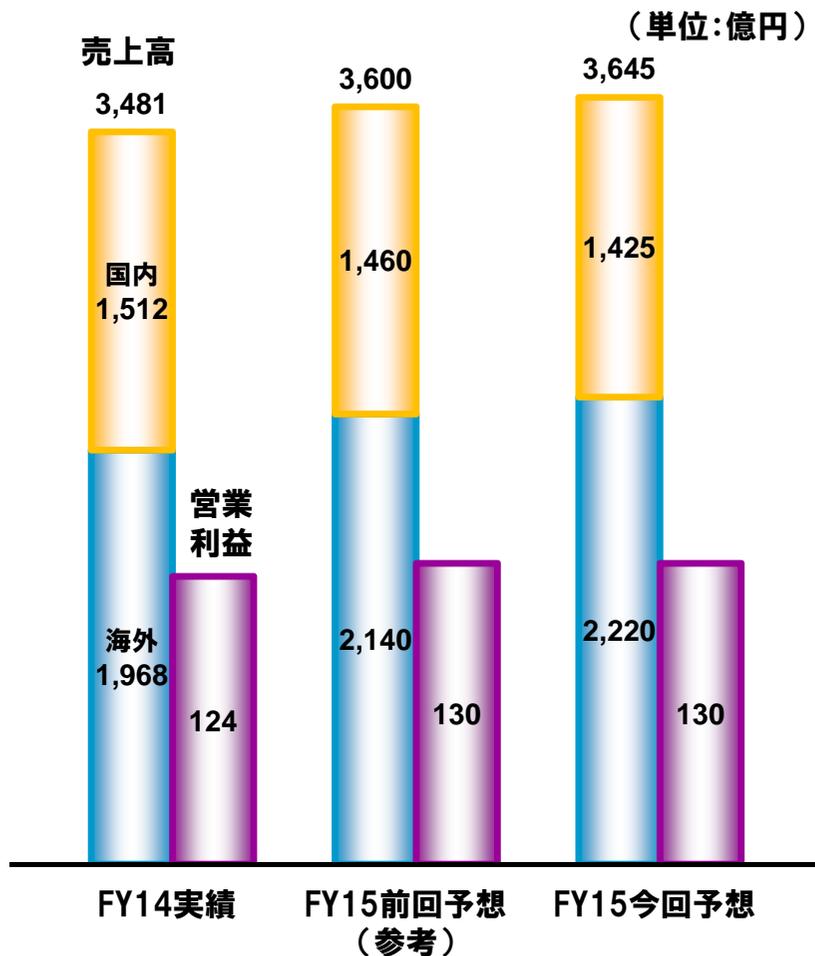
- **特別利益 250億円:前回予想から255億円の増益**
 - DJ事業売却等により特別利益約580億円、グループ全体のスリム化等により特別損失約330億円を見込む

2015年3月期 下期予想 営業利益増減要因（上期との比較）

（単位：億円）



2015年3月期予想：カーエレクトロニクス



< 売上高 > OEM比率 55% (前期 54%)

対前期	105% (国内 94%、海外 113%)
増収要因	OEMカーオーディオ OEMカーナビゲーションシステム 市販カーオーディオ
減収要因	市販カーナビゲーションシステム
対前回予想	101% (国内 98%、海外 104%)
増収要因	OEMカーオーディオ OEMカーナビゲーションシステム
減収要因	市販カーナビゲーションシステム

< 営業利益 >

対前期	6億円の良化
良化要因	原価率の良化 (+31億円) 売上増による売上総利益の増加 (+20億円) 為替影響 (+4億円)
悪化要因	販売費及び一般管理費の増加 (-48億円)
対前回予想	変更なし

< 出荷台数 >

(単位:千台)

	FY14実績	FY15前回予想	FY15今回予想
市販カーナビ	835	820	740
市販カーCD	7,999	8,650	8,300

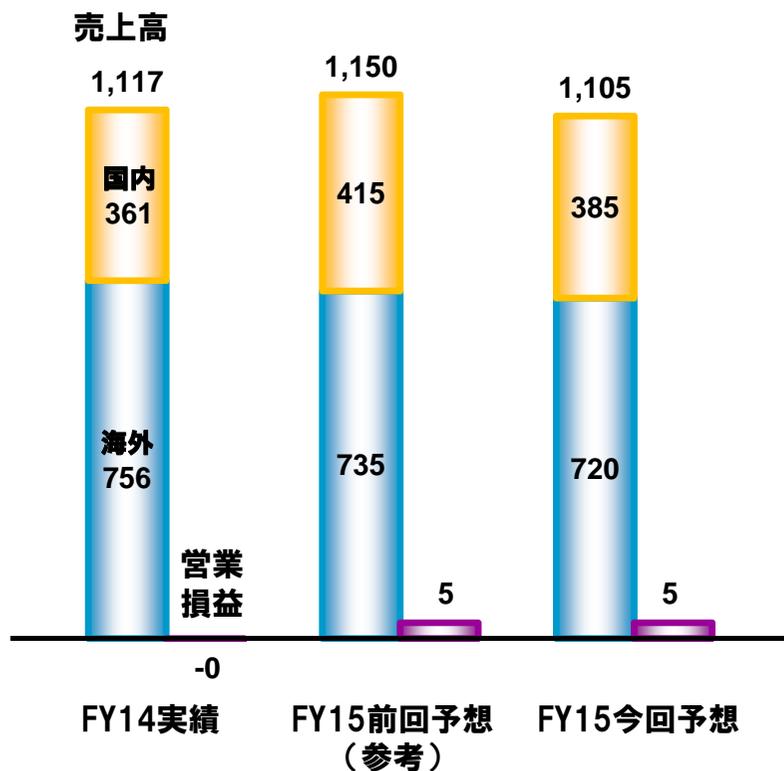
注)セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

2015年3月期予想：ホームエレクトロニクス

(単位:億円)

< 売上高 >

対前期	99% (国内 107%、海外 95%)
増収要因	CATV関連機器、DJ機器
減収要因	ホームAV製品
対前回予想	96% (国内 93%、海外 98%)
増収要因	特になし
減収要因	光ディスクドライブ関連製品、ホームAV製品、CATV関連機器、AVアクセサリ



< 営業損益 >

対前期	5億円の良化
良化要因	原価率の良化 (+29億円)
悪化要因	販売費及び一般管理費の増加 (-17億円) 売上減による売上総利益の減少 (-5億円) 為替影響 (-2億円)
対前回予想	変更なし

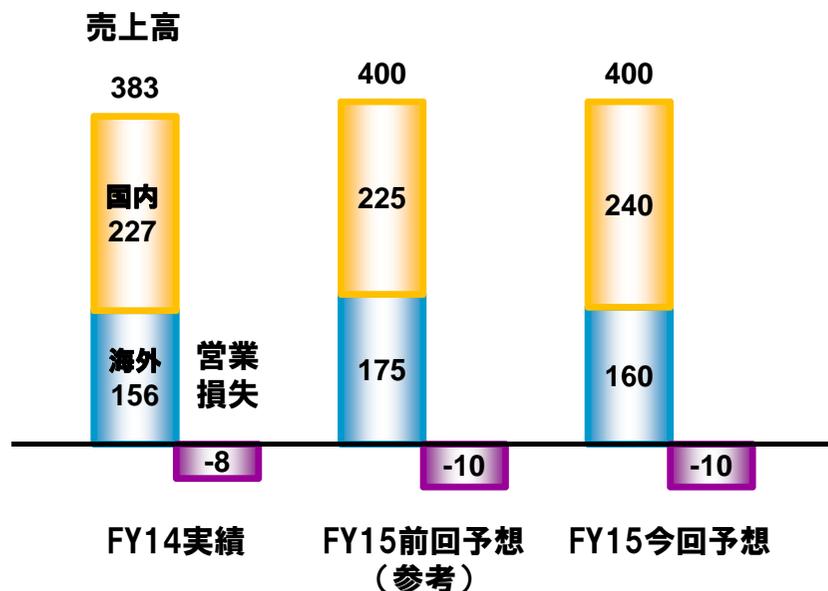
注) 1. セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

2. 従来「その他」に含まれていた電話機を「ホームエレクトロニクス」に含めています。これに伴い、前期の金額についても、当期の表示に合わせて組替表示しています。

2015年3月期予想：その他

(単位:億円) < 売上高 >

対前期	105% (国内 106%、海外 103%)
増収要因	FA機器
減収要因	業務用AVシステム、電子部品
対前回予想	変更なし



< 営業損失 >

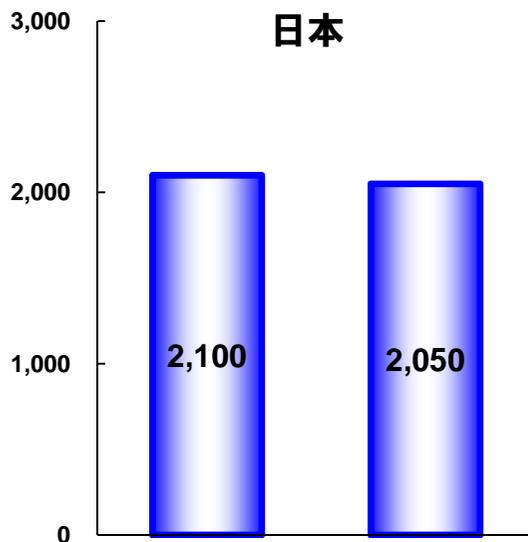
対前期	2億円の悪化
良化要因	売上増に伴う売上総利益の増加 (+3億円) 原価率の改善 (+1億円)
悪化要因	販売費及び一般管理費の増加 (-6億円)
対前回予想	変更なし

注) 1. セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

2. 従来「その他」に含まれていた電話機を「ホームエレクトロニクス」に含めています。これに伴い、前期の金額についても、当期の表示に合わせて組替表示しています。

2015年3月期予想 地域別売上高

(単位:億円)

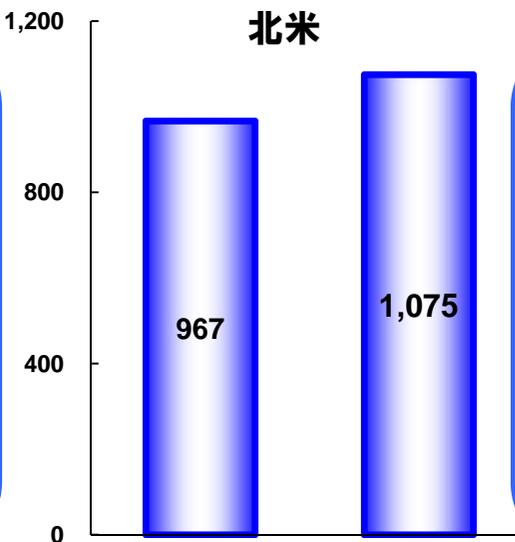


FY14実績 FY15今回予想

前期比
98%

増収要因
CATV関連機器
光ディスクドライブ関連製品
FA機器

減収要因
市販カーナビゲーションシステム
OEMカーナビゲーションシステム

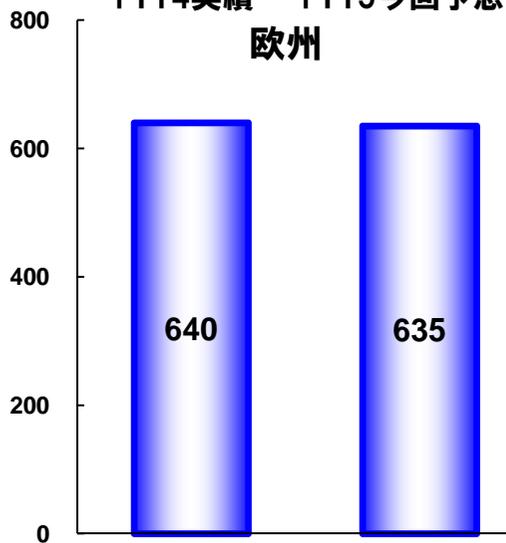


FY14実績 FY15今回予想

前期比
円ベース : 111%
現地通貨ベース : 107%

増収要因
市販&OEMカーオーディオ
市販&OEMカーナビゲーションシステム
DJ機器

減収要因
ホームAV製品

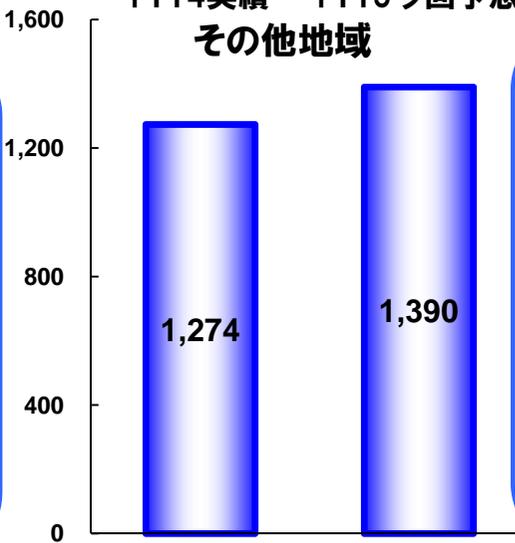


FY14実績 FY15今回予想

前期比
円ベース : 99%
現地通貨ベース : 99%

増収要因
OEMカーオーディオ
DJ機器
AVアクセサリ

減収要因
市販カーオーディオ
ホームAV製品



FY14実績 FY15今回予想

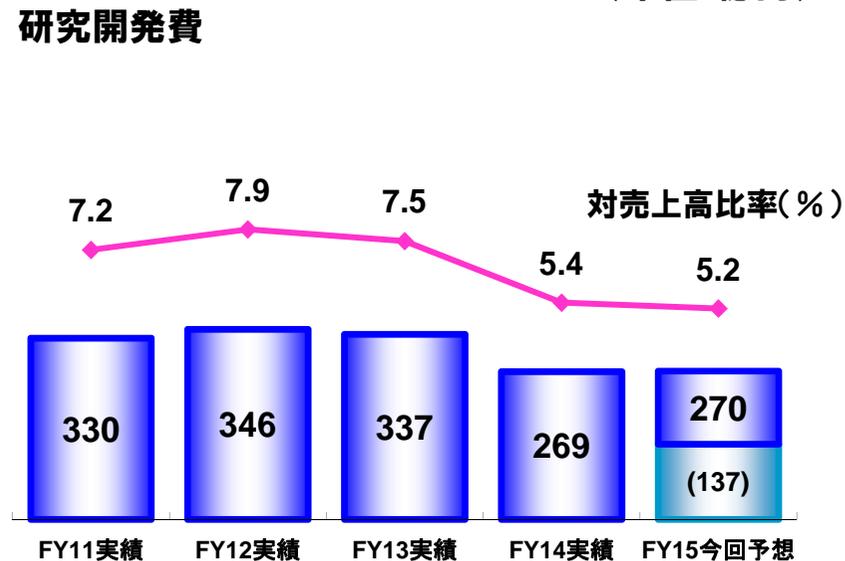
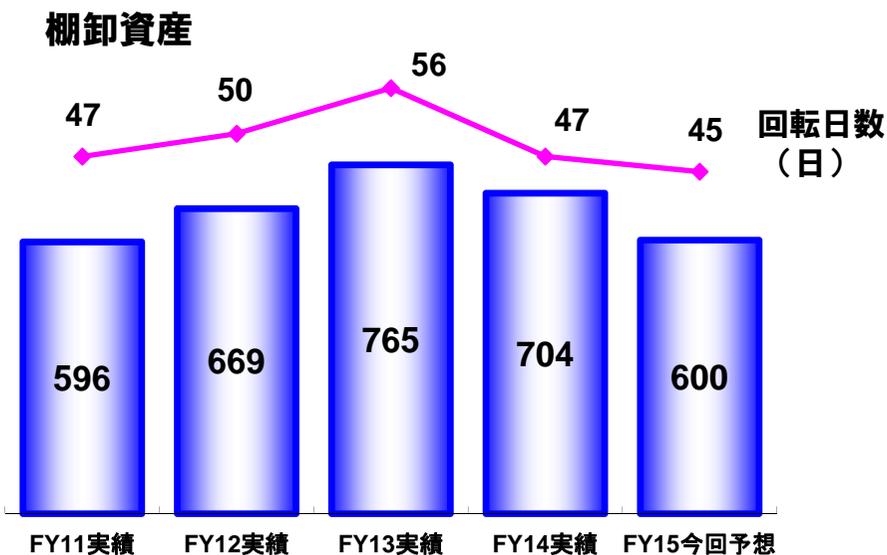
前期比
円ベース : 109%
現地通貨ベース : 106%

増収要因
OEMカーナビゲーションシステム
市販カーオーディオ & カーナビゲーションシステム
DJ機器

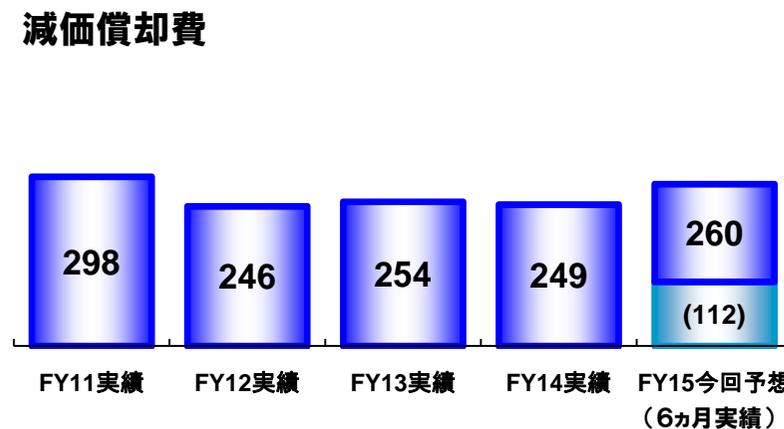
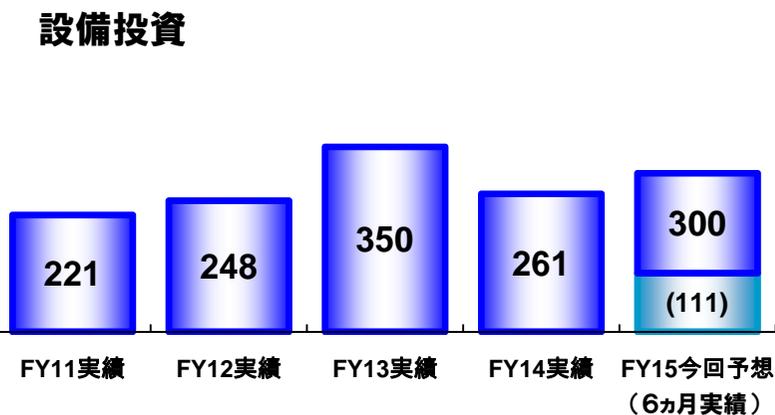
減収要因
ホームAV製品
光ディスクドライブ関連製品

2015年3月期予想 棚卸資産、研究開発費、設備投資、減価償却費

(単位:億円)

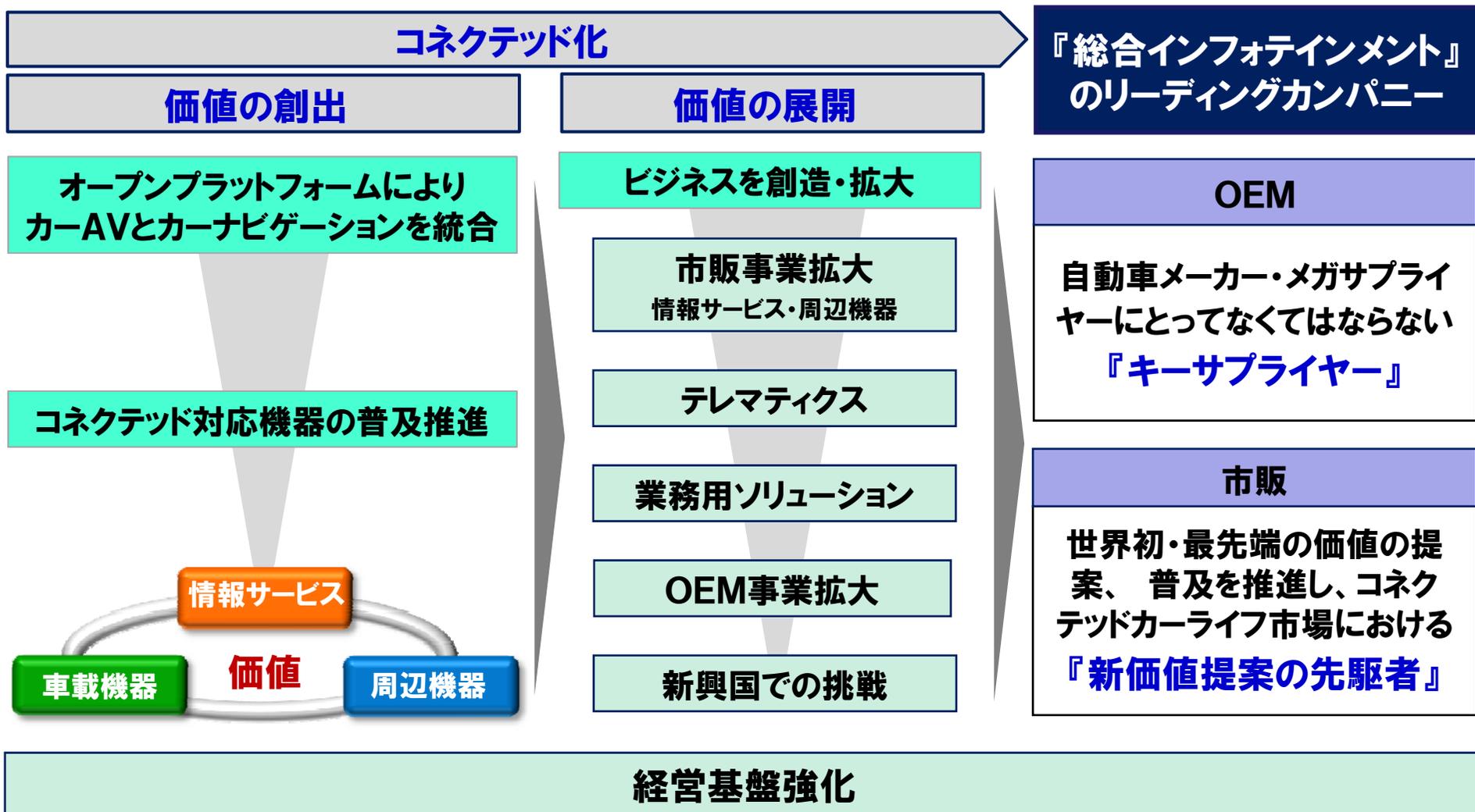


注) FY15末の予想からは、ホームAV事業およびDJ機器事業に関わる金額を控除しています。



3. トピックス

1. カーエレクトロニクスの成長戦略について -目指す姿の実現に向けて-



1. カーエレクトロニクスの成長戦略について -コネクテッド化-

シームレスなクラウドサービスに車/利用者から取得する情報を加えて解析を行い、最適な情報を最適なインターフェースを通じて提供することで

「快適、感動、安全・安心のクルマ体験」を実現

	当社の強み	今後の施策	目指す方向
情報サービス	株式会社NTTドコモとの協業	ビッグデータの分析力強化 米国トレジャーデータ社と業務提携	ASEAN地域で基盤を確立 国内で確立したビジネスモデルの活用 グローバル展開
	グループ会社が保有する地図データ	ASEAN地域の地図データ整備 MappointAsia社と合併会社設立について合意	地図・車載機器・周辺機器関連の強み 技術開発力の取得により 自動運転に向けたポジション確立
	プローブ情報活用サーバーサービス	詳細地図データ整備 NTT空間情報株式会社と業務提携	
周辺機器	HUD、有機EL照明、音響関連機器	安全・安心に向けた技術開発力強化 多様な機関との連携推進(JARI*等)	アライアンスやM&Aも視野に入れた 関連技術・知見の取得
車載機器	グローバルでの高いシェアとブランド	IT企業サービスとの連携強化	情報サービス・周辺機器とつながる コネクテッド対応機器の普及拡大
	カーAVとカーナビゲーションを保有	オープンプラットフォームによる カーAVとカーナビゲーションの機種統合	

*JARI: 日本自動車研究所。当社は、JARIが経済産業省からの委託で進める「危険予測技術」の開発に参加

*ADAS: 先進運転支援システム。安全確保の観点から運転者を支援するシステム

1. カーエレクトロニクスの成長戦略について -OEM事業および新興国戦略-

【OEM事業拡大】

<p>既存アカウント の取引拡大</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市販市場における迅速なコネクテッド化への対応により、顧客の評価・要望に基づいた、独自の価値提案により実現
<p>グローバルアカウント の新規獲得</p>	<ul style="list-style-type: none"> コネクテッド化に関連する独自のソリューション、デバイス、周辺機器により、新規アカウントおよびメガサプライヤーとのビジネスを獲得 実現に向けた体制強化の一環として、本年10月よりブラジルに統括機能を配置、来年7月にインドネシアに販売現地法人を設立予定
<p>スピーカービジネス の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> OEMカースピーカーの売上をFY20に2倍に(FY14実績比) 関連部門を統合し、分散していた社内リソースを集約、開発力を強化 既存領域は普及価格帯から超高価格帯まで幅広く展開 音響技術と組み合わせた新領域(ユーザーインターフェース活用、ノイズキャンセル、擬似エンジン音等)を強化

【新興国での挑戦】

<p>スモールカー/ オーディオレスカー への挑戦</p>	<ul style="list-style-type: none"> 現地の経済水準に合った体制・プロセスで、スマートフォン対応モデルなど新興国のスモールカーに適合する製品を開発
---------------------------------------	--

1. カーエレクトロニクスの成長戦略について -投資の方向性-

FY16以降、財務体質の健全化により、適切な投資が可能に

成長戦略の実行に向けて、先行投資を積極的に行う

M & A

アライアンス・合併事業

技術・生産・マーケティング等

重点戦略	投資方針
コネクテッド化	グローバル展開 / 技術開発先行投資 / アライアンス活用
OEM事業拡大	グローバルな提案力・営業力強化 / スピーカービジネス拡大
新興国での挑戦	R & D強化 / 生産拠点構築 / ブランド力、マーケティング強化

1. カーエレクトロニクスの成長戦略について -利益性確保の考え方-

利益性の高い既存領域を主軸とし、利益基盤を強化

- カーAV製品は高い利益性を維持。市販においては10%以上の利益率を確保。同時に新興国スモールカーも含めた低価格帯でのシェア拡大
- カーナビゲーションは、オープンプラットフォームによりカーAV製品と統合を進め、開発費を大幅に低減することで、収益性を改善
- 生産拠点の再編、製品構造の標準化・共通化などにより、従来以上のコスト削減を実現

OEM
損益改善

270億円
(6.2%)

FY18以降は新規領域が徐々に利益に貢献

- 業務用、地図関連やテレマティクスなどのソリューション事業、HUD/ADAS関連などの周辺機器の拡大
- スピーカービジネスは、分散していたリソースを集約OEMを中心に普及価格帯から超高価格帯まで幅広く、さらに新領域にも取り組む

200億円
(5.1%)

【新規領域】

【既存領域】
カーナビゲーション ⇒ 統合モデル

124億円
(3.6%)

【営業利益推移】
イメージ図

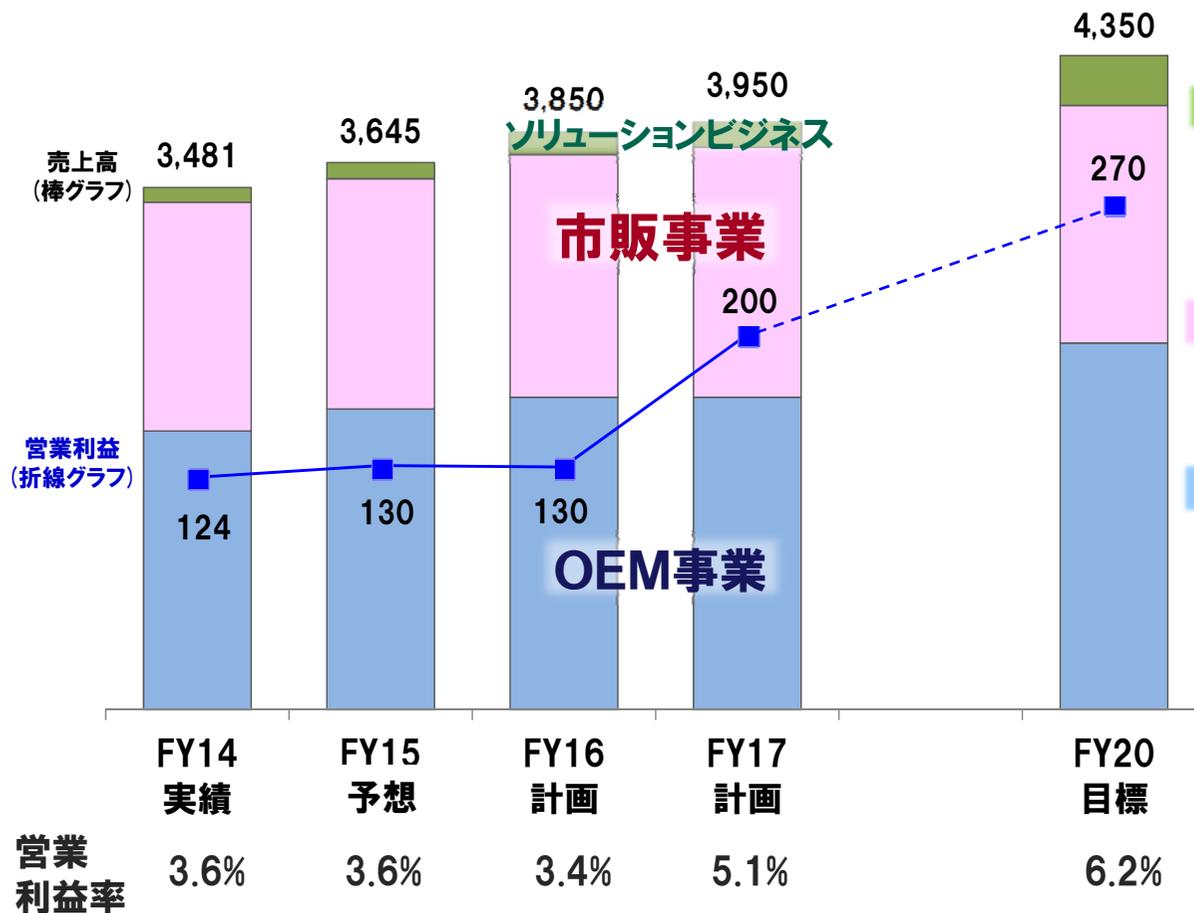
【既存領域】
カーAV製品

FY14 FY15 FY16 FY17 FY20

1. カーエレクトロニクスの成長戦略について -数値目標-

FY17 売上高3,950億円、営業利益率5%以上
FY20 売上高4,350億円、営業利益率6%以上

(単位:億円)



FY20目標達成のための成長戦略

ソリューションビジネスを3倍以上に (FY14実績比)

- 国内業務用ビジネス領域の潜在顧客攻略
- テレマティクス市場拡大による事業の伸張
- 地図サービスの事業領域拡大と海外展開

市販事業の事業規模確保

- コネクテッド対応製品の先行市場導入・普及拡大
- 新興国オーディオレスカー攻略による新規売上

OEM事業 30%拡大 (FY14実績比)

- 提案力強化による既存アカウントでの取引拡大
- 新興国スモールカー向けの新規売上
- OEMスピーカー売上の倍増
- キーモジュール、キーデバイスの事業化取り組み

(為替条件)

1USドル=105円、1ユーロ=135円

2. 全社中期数値計画

(単位:億円)

	FY14 実績	FY15		FY16 計画	FY17 計画	
		前回予想	今回予想			
売上高	4,981	5,150	5,150	4,750	4,850	
営業利益 (営業利益率)	112 (2.2%)	125 (2.4%)	125 (2.4%)	125 (2.6%)	200 (4.1%)	
経常利益	51	75	55	90	170	
当期純利益	5	20	200	30	105	
カー エレクトロニクス	売上高	3,481	3,600	3,645	3,850	3,950
	営業利益	124	130	130	130	200
ハンカー エレクトロニクス	売上高	1,500	1,550	1,505	900	900
	営業損益	-8	-5	-5	-5	0
為替レート	1USドル	100.24円	100.54円	104.02円	105円	105円
	1ユーロ	134.37円	136.27円	136.96円	135円	135円

注) FY16およびFY17における為替インパクトは、1円の円安により、売上高では、USドルは約23億円、ユーロは約3億円、営業利益では、USドルは約-3億円、ユーロは約2億円。

2. 全社中期数値計画 -棚卸資産、研究開発費、設備投資、減価償却費-

(単位:億円)

	FY14	FY15		FY16	FY17
	実績	前回予想	今回予想	計画	計画
棚卸資産	704	670	600	640	650
回転日数	47日	44日	45日	45日	45日
研究開発費 (売上高比率)	269 (5.4%)	270 (5.2%)	270 (5.2%)	250 (5.3%)	260 (5.4%)
設備投資	261	300	300	290	290
減価償却費	249	285	260	310	270

2. 全社中期数値計画 -キャッシュ・フローおよび財務指標-

【キャッシュ・フロー】

(単位: 億円)

	FY14	FY15		FY16	FY17
	実績	前回予想	今回予想	計画	計画
営業キャッシュ・フロー	342	330	240	240	350
投資キャッシュ・フロー	-219	-300	320	-290	-290
財務キャッシュ・フロー	-9	-90	-540	-50	-50
フリー・キャッシュ・フロー	124	30	560	-50	60

【財務指標】

	FY14	FY15		FY16	FY17
	実績	前回予想	今回予想	計画	計画
純資産	778	800	1,030	1,060	1,160
自己資本比率	22%	23%	30%	33%	35%
ネット有利子負債	521	510	-40	10	-50
現金及び預金	354	290	380	280	290

Pioneer